

各課の解説

第1課 名前

〈この課で伝え合うこと〉

名前の由来や込められた意味について、学習者と支援者の間で伝え合うことをめざします。各自の名前や意味を説明しようとする、どうしても言葉が難しくなり、言葉に詰まりがちになりますので、辞書を引くなどしながら、進めていただくといでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. ドキドキ(する)

心臓の音を表す擬音語です。「目と目が合って、ドキドキした」や「ドキドキして、話すことができなかつた」など、理由とともに使われたり、結果を表す文が後ろに来たりします。

2. にこにこ(する)

擬態語で、後ろに来る動詞は「する」「笑う」「ほほえむ」などです。

3. 仲良く

「仲が良い」が「仲良く」となったもので、後ろは「する」「なる」などのほか、いろいろな動詞が使えます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. × 5. ×

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. ときどき言葉がわからなくて、困ることがあるからです。
2. 少し緊張してドキドキしていました。
3. ネパールと日本の名前の順番と田中さんの名前の意味について話しました。

〈使ってみよう〉

1. ~ばいい

方法や手段を問う言い方です。ほかに、「~たらいい」という言い方があります。「どこへ行けば／誰に聞けば／何をすれば／どうすれば」など、疑問の言葉を様々に置き換えると、いろいろな場面で方法や手段を尋ねることができます。答え方は様々ですが、ここでは同じ「~ばいい」を使って答える練習をします。答えるときには、「~ばいいです／~ばいいと思います」の形で提案や勧めを表します。

【解答例】

- A: さいふをなくしたとき、どうすればいいですか。
B: I 階の事務所で聞いてみればいいと思います。

2. ~という意味だ

言葉や表現の意味を説明する言い方です。「という」の前は普通形(「丁寧形(です・ます)」に対する普通の形【例:食べます→丁寧形・食べる→普通形】)になります。

【解答例】

「優子」は優しい子という意味です。

3. ~ことにする

話し手自身の意志や判断で事前に決めたことを述べるときの言い方です。「こと」の前は、動詞の辞書形(辞書にある形)と『ない形』(「食べない」「言わない」など語尾に「ない」がつく形)になります。

また、「~ことにします」は、決めたその場で決めた内容を述べる言い方、「~ことになりました」は決めた人の意思が感じられず、結果のみを報告する言い方、「~ことにしています」は個人的な習慣を、「~ことになっています」はルールや規則を表す言い方です。ここでは、「~ことにしました」という形のみ限定して練習します。

【解答例】

風邪を引いたので、仕事を休むことにしました。

第2課 日本語の学習

〈この課で伝え合うこと〉

日本語の学習について、これまでどのぐらい、どんな学習をしたか、これからどんな学習をしたいか、それはどうしてかといった学習に関する目標や進め方を学習者と支援者の間で共有することをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. 迷惑(な) (する)

名詞、『な形容詞』(名詞の前の形が『きれいな(花)』『元気な(子ども)』のように「な」になる語)としての使い方に加えて、「[原因]に迷惑する」という動詞としての使い方もあります。また、「[人]に迷惑をかける／がかかる」、「[人]の迷惑になる」といった一緒に使う動詞を紹介してもいいでしょう。

2. ペラペラ

擬音語で、「話す」という動詞とともに使われることが多いです。また、「[外国語]がペラペラになる」という言い方もあります。

3. 得意(な)

『な形容詞』で、反意語の「苦手」もともに紹介するといいいでしょう。初級で「上手」「下手」を習うので、これらを使う学習者が多いですが、日本語では直接的な言い方になることが多いので、「得意」「苦手」を使うことをおすすめしましょう。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. × 4. × 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. お知らせをもらいました。
2. 日本語がわからないかもしれないと心配だったからです。
3. 介護ヘルパーの仕事がしたいと思っています。

〈使ってみよう〉

1. ～てもらいたいんですが

人に何かを依頼するときに、前置きの説明として自分の希望を述べる言い方です。「もらいたい」の前は動詞の『て形』（「着て」「書いて」など語尾が「て」で終わる動詞）です。

【解答例】

- A: すみません。ちょっとこの帽子を見せてもらいたいんですが…。
- B: はい、どうぞかぶってみてください。

2. ～たらどうか

人に何かを勧めたり、アドバイスしたりするときに使う表現です。答え方は、それに応じたり、応じられなかったりと、様々です。適切な応答ができるように支援しましょう。

【解答例】

- A: 毎日少しずつノートに漢字を書いて練習したら、どうですか。
- B: ええ、でも、なかなか時間が作れません。

3. ～ようになる

「～ようになる」は変化を表す言い方です。ここでは、「～ようになりたい」という形で目標を述べる練習をします。「ように」の前は可能動詞（「話せる」「言える」など可能を表わす動詞）の辞書形です。

【解答例】

私は日本語がペラペラ話せるようになりたいです。

第3課 大切な人

〈この課で伝え合うこと〉

家族や仲のいい友人など、自分が大切に思っている人について伝え合うことをめざします。出会ったきっかけ、なぜ大切な人になったかなど、具体的な人物像を伝えることができるといいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. 連絡(する)

「[人]に連絡する」または「[人]と連絡を取り合う」などの形があります。助詞に注意して練習しましょう。

2. 離れる

「[人]と離れる」「[場所]を／から離れる」のように、助詞の使い方に気をつけましょう。また、「家族と離れる／別れる」の違いは、「離れる」が別の場所に住むという意味で使われ、「別れる」は関係が途絶えるという意味になる点です。「分かれる」は「道が分かれている」のように、元は1つだった物が別々になるという意味です。

3. どんどん

変化が速いことを表す副詞です。変化を表す動詞（「変わる」「なる」など）や表現（「～てくる」「～ていく」など）とともに使われます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. × 4. ○ 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 息子はサリムさんが日本へ来てから生まれたからです。
2. 日本へ来ることが決まってから結婚したので、妻とはあまり一緒に暮らせなかったからです。
3. 山本さんは、サリムさんにとって大切な人は妻と息子だと思っています。

〈使ってみよう〉

1. ～てくる

「～てくる」は、主に①一度その場を離れてまた戻る行為（例：コンビニで飲み物を買ってくる）、②話し手に向かう行為（例：犬が飛びついてきた）、③変化の開始（例：歯が生えてきた）、④現在まで続いている行為（例：父はこの会社で30年働いてきた）を表します。この場合は、③の文を作りましょう。

【解答例】

たくさん歩いて、足が痛くなってきました。

2. ～たばかり

「～たばかり」は、正に「～ただけの状態、次の段階に進んでいないこと」を表します。「～たばかりだ」、「～たばかりなので、まだ～」、「～たばかりなのに、もう～」などの形で使われます。ここでは、「～たばかりのときは、～」という形で練習します。

【解答例】

仕事を始めたばかりのときは、何もわからなくて、困りました。

3. ～にとって

「[人]にとって、XはY」の形で使われ、「XはY」という考えや気持ちがある特定の人のみに当てはまることを表します。

【解答例】

外国人にとって、敬語は難しいです。

第4課 ほっと一息

〈この課で伝え合うこと〉

一日の中で、最もくつろげるひとときについて共有することをめざします。また、忙しい毎日の中で、緊張を強いられるような場面やストレスを感じるようなことについても話題にできるといいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. つい

「本当はそれをしないほうがいい」「やってはいけないとわかっている」ことについて、「十分に注意せず、やってしまった」と言いたいときに、使います。文末が「～てしまった」という形で終わることが多いです。

2. 特に

複数の中から、または多くの可能性の中から1つに限定することを表すときに使います。

3. ぼうっと(する)

ほかのことを考えていたり、何も考えずリラックスしたりするときの様子を言います。「する」以外の動詞が使われることも多いです。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. ○ 3. × 4. ○ 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 何を買おうかなとか、これは新しい商品かなとか考えながら、選ぶのが楽しいと言っています。
2. タンさんにとってコンビニはほっと一息つける場所だと言っています。
3. 本屋にいるときです。それから、風呂から上がってビールを飲みながらぼうっとテレビを見るときもほっとすると答えました。

〈使ってみよう〉

1. ～とか、～とか

会話の中でよく使われます。名詞と名詞、形容詞と形容詞、動詞と動詞を並べるときの言い方です。文と文を並べて言うときにも使われます。

【解答例】

大きい車を見ると、かっこいいとか、乗りたいとか思います。

2. ～わけではない

「[原因・理由]から、[状況]わけではない」の形で練習します。ある状況について原因や理由を否定するときに使います。

【解答例】

外に出るのがいやだから、家にいるわけではありません。

3. ～ため

目的を表します。「名詞+のため」または「動詞辞書形+ため」という形で使われます。また、「動詞『た形』（「持った」「食べた」など語尾が「た」で終わる動詞）+ため」は、原因・理由を表す言い方になります。

【解答例】

新しいパソコンを買ったのは家で仕事をするためです。

第5課 気づいたこと・驚いたこと

〈この課で伝え合うこと〉

日本で生活する中で、気づいたことや驚いたことについて学習者に意見を述べてもらい、学習者と支援者がともにお互いの考え方や感じ方について理解を深めることをめざします。相手の文化にも、自身の文化にも興味、関心が持てるといいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. 気づく

「気がつく」という2つの語が「気づく」という語になりました。助詞は「に」ですが、その前に文が来るときは、「～の**に**気づく」という形になります。

2. 驚く

この動詞も「気づく」と同様、助詞は「に」です。その前に文が来るときは「～のに驚く」という形になります。

3. ぺこぺこ(する)

擬態語で、頭を下げて謝る様子を表します。「する」のほかには「謝る」「頭を下げる」などの動詞が使われます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. ○ 3. × 4. ○ 5. ×

〈読んでもみよう〉

【解答例】

1. 日本では気配りを大切にしているからです。
2. 前の日の朝、リタさんが生の卵を食べずに残したら、リタさんだけゆでた卵が出てきたからです。
3. 「すみません」と言うのは人の気持ちを考えすぎていると思っているからです。

〈使ってみよう〉

1. ～たびに

「～ときはいつも～」と言うときに使います。「名詞+のたびに」または「動詞辞書形+たびに」の形で使われます。

【解答例】

チンさんは会うたびに、おもしろい話をしてくれます。

2. ～なんて

「～なんて」は、「～は」と同じように主題を表します。ある主題について、驚きや否定的な気持ちを表すときに使います。「なんて」の前は普通形です。「～なんか」も同様の使い方ですが、名詞とともに使われます。話し言葉では「～なんて／なんか」、書き言葉では「～など」が使われます。

【解答例】

車を買うなんて、できません。

3. ～(よ)うとする

何かをやりかけたことを表します。しかし、それができなかった場合にこの表現を使うことが多いです。「とする」の前は、動詞の意向形(「行こう」「食べよう」「来よう」「しよう」など)です。

【解答例】

電車の写真を撮ろうとしましたが、駅の人に「ここで撮ってはいけない」と言われたので、撮ることができませんでした。

第6課 災害

〈この課で伝え合うこと〉

日本はどこにいても自然災害に見舞われる可能性があります。日本語力に不安を感じる外国人も、災害の被害を最小限に抑えられるよう、防災の意識や備えが大切です。災害時の経験を伝え合うなど、有効な情報を共有をすることをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. ～目に遭う

「つらい、怖い、ひどい、いやな」などの形容詞を伴い、良くない経験をしたことを意味します。

2. さっと

「短い時間に、簡単に、～する」という意味を表します。

3. 必要(な)

『な形容詞』ですが、「必要な+名詞」、「動詞辞書形+ことが必要だ」「動詞辞書形+必要がある／必要はない」など、様々な形で使われます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. ○ 4. × 5. ○

※ネパールでは、2015年4月にマグニチュード7.8と推定される大地震が起きました。

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. ラビンさんはちょうどエレベーターを待っていました。
2. 余震で家が崩れるのが怖かったからです。
3. 水や非常食を買ってストックしておいたり、避難用のかばんを準備したりしています。

〈使ってみよう〉

1. そう言えば

相手の話に関連付けて、話をさらに展開させるときに使います。

【解答例】

A: 昨日、駅の近くで、火事があったそうです。

B: そう言えば、ニュースに出ていましたね。

2. ～場合

普段と違う状況を表します。「場合」の前は普通形です。また、「名詞+の場合」、「『な形容詞』+な場合」の形で使われます。

【解答例】

地震が起きた場合、まず火を止めてください。

3. ～ておく

「ように」は目的を表し、可能動詞の辞書形やすべての動詞の『ない形』など状態を表す動詞とともに使います。「ために」も同様に目的を表しますが、これは動作を表す動詞の辞書形とともに使います。また、「～ておく」はある目的のために、あらかじめ準備することを表し、動詞の『て形』とともに使われます。

【解答例】

いつでも食べられるように、たくさん料理を作っておきます。

第7課 SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

〈この課で伝え合うこと〉

コミュニケーションの手段としてよく使われる SNS について、日本語でも利用できるように情報を共有することをめざします。また、SNS を利用した場合の問題や気をつけるべき点などにも話題を広げられるといいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. わくわく(する)

期待が高まっている様子を表す擬態語です。

2. なんとなく

はっきりはわからないが、そう感じると言いたいときに使います。形容詞、動詞とともに使います。

3. バタバタ(する)

慌ただしく走り回る様子を表す擬音語で、「～て、バタバタする」と理由とともに使われたり、「バタバタして、(～ができない)」など、副詞としても使われます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. × 4. ○ 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. みんなが何か食べ物を持ってくることが決まっています。
2. 教室ではゆっくり話せないからです。
3. 自分の情報が知らない人に伝わるのがいやだからです。

〈使ってみよう〉

1. ~のことなんですけど

人に声をかけるとき、用件を前置きしておくのに使われます。

【解答例】

A:あのを、チンさんの誕生日パーティーのことなんですけど、…。

B:ええ、何ですか。

2. ~ば、~なくても

提案をするとき、これまでのやり方について「~なくても」で表し、最後にその新たな提案によって可能になることを述べます。

【解答例】

スマホがあれば、出かけなくても、家でいろいろな映画が見られます。

3. ~というより

より適切な表現に言い換えるときに使います。

【解答例】

今日は暖かいというより暑い日です。

第8課 自慢の料理

〈この課で伝え合うこと〉

それぞれの国や地域のおいしい料理や家庭の料理について、作り方や食べ方を紹介し合うことをめざします。文化や宗教によって、よく食べる物や食べられない物などに話題を広げてもいいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. 似る

文末では「~と／に似ている」と、いつも「~ている」をつけます。名詞の前では、「~と／に似た(人)」というように、「~た」の形になります。

2. カリッと

固くて少し歯応えがあることを表した擬音語です。「焼く／揚げる」など調理のしかたを表す動詞と使われることが多いです。

3. めったに(～ない)

「ほとんど～ない」と同じで、頻度が低いことを表します。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. ○ 3. × 4. × 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 明日のパーティーで出す料理について相談しました。
2. 野菜を食べやすい大きさに切ります。
3. しょうゆと酢とコチュジャンです。

〈使ってみよう〉

1. ～名詞(だ)

名詞を詳しくする(名詞を修飾する)文です。名詞の説明をするときに使います。

【解答例】

おせち料理は日本でお正月に食べる料理です。

2. ～と言われている

一般的に伝えられていることを説明するときに使います。

【解答例】

大阪は食の町だと言われています。

3. はじめに、～。次に、～。

手順を説明するときに使います。

【解答例】

はじめに、ふたを開けて水を入れます。次に、ふたを閉めて、15分待てば、火を使わない非常食のご飯が出来ます。

第9課 ふるさと大阪

〈この課で伝え合うこと〉

今住んでいる地域の場所や物や人などについて、情報を共有することをめざします。また、大阪にはいろいろな国や地域出身の人たちがともに暮らしていることを考えてみましょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. そわそわ(する)

心がほかのことにとらわれていて、落ち着かない様子を表す擬態語です。「～て、そわそわする」や「そわそわして、(～ない)」などの形で使います。

2. ワイワイ

大勢の人がにぎやかに話す様子を表した擬音語です。「騒ぐ、話す」などの動詞とともに使われます。

3. うきうき(する)

心が浮いたように、楽しい気持ちになることを表す擬態語です。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. ×

〈読んでもみよう〉

【解答例】

1. タンさんはこれから八尾市へ行って、今晚友人たちとお正月のお祝いをするからです。
2. ベトナム料理のレストランやカラオケ、食料品や雑貨の店などがあります。
3. いろいろな所に出かけて、大阪のことをもっと知りたいと思いました。

〈使ってみよう〉

1. ~よう(な)

ほかの物やことにたとえて説明するときに使います。

【解答例】

この音楽を聞くと、まるで学生のころに戻ったような気分になります。

2. ~と言えば

「名詞+と言えば」の形で、名詞を主題化し、その言葉を聞くと、当然思い出される物事について説明します。

【解答例】

京都と言えば、神社やお寺、そして、着物のイメージですね。

3. ~たところ

「動詞『た形』+ところ」という形で、驚きや新しい発見があったきっかけを示し、その後、驚きや新しい発見について述べます。

【解答例】

駅の人に尋ねたところ、さいふの忘れ物はないとのことでした。

第10課 旅行

〈この課で伝え合うこと〉

旅行について、情報や経験を共有することをめざします。経験を話すときは、接続詞をうまく使って、時系列に出来事を整理して伝えられるようにしましょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. この間

明確にいつと決まっているわけではなく、最近という意味で使います。

2. ついでに

ほかの目的のために作った時間ですが、その時間を少し使って、もう1つ別のことをすると言いたいときに使います。

3. すっかり

意味が2つあります。①「すべて、残らず」という意味で、「～てしまう」という表現とともに使われることが多いです。②「完全に」という意味で、変化した後の状態・状況を述べるのに使われます。今回は、②の意味で使っています。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 旅行の計画を立てて、インターネットでおいしい食べ物やおしゃれな雑貨の店を探しました。
2. 地元の料理を出す店を教えてくださいました。
3. おすすめの場所を教えてくださいました。

〈使ってみよう〉

1. ～通り

「～と同じように(する)」という意味です。「動詞辞書形／『た形』／～ている+通り」、そして、「名詞+の通り」の形で使われます。「名詞+の通り」は、「の」を使わない「名詞+通り(例:時間通り)」という形もあります。

【解答例】

キムさんが教えてくれた通り、チヂミを作ってみました。

2. ~ても、~たら

「~ても」で目的や手段を述べ、それらはある条件(「~たら」)が整わなければ完成しないという意味を伝えます。

【解答例】

料理を作っても、一緒に食べる人がいなかったら、おいしくありません。

3. ~てほしい

ほかの人にしてもらいたいことを伝えるときに使います。

【解答例】

私は母に私の好きなお菓子を送ってほしいと頼みました。

第11課 人との付き合い

〈この課で伝え合うこと〉

人付き合いは誰にとっても多かれ少なかれストレスの原因となることがありますが、外国人にとっては、文化の問題か、言葉の問題か、何が問題で人付き合いがぎくしゃくするのか、わかりにくいと思います。微妙な問題ではありますが、周りの人との関係の持ち方や付き合い方について考えを伝え合い、理解を深めることをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. ちゃんと

正しいやり方で何かをするという意味です。

2. うろうろ(する)

特に目的なく歩き回っている様子を表す擬態語です。「[場所]をうろうろする」の形で使われます。また、「歩く」「歩き回る」と一緒に使われます。

3. うまくいく

「[事]がうまくいく」、「[人]とうまくいく」のように、言葉の意味によって助詞の使い方が変わりますので、気をつけましょう。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. ○ 4. × 5. ×

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 大家さんや近所の人たちにいつも見られているような気がすることです。
2. 悪気はなく、ただサリムさんのことを気にかけているだけだと言っています。
3. 自分が外国人だからだろうと思っています。

〈使ってみよう〉

1. ～のまま

その状態や動作が続くことは通常ではないが、その状態や動作が続いていると言いたいときに使います。「動詞『た形』／『ない形』+まま」の形で使われます。

【解答例】

テレビをつけたまま、寝てしまいました。

2. ～ような気がする

感じていることを控えめに述べるときに使います。

【解答例】

田中さんはあしたはうまくいくような気がします。

3. ～のは～からだ

「[状況]のは[原因・理由]からだ」の形で、話し手と聞き手の間ですでに共有されている状況について、その原因・理由を説明するのに使います。

【解答例】

風邪を引いたのは、最近あまりよく寝ていないからです。

第12課 健康

〈この課で伝え合うこと〉

健康状態や体調管理、健康法について情報を共有することをめざします。また、生活習慣などについても触れる機会となればいいでしょう。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. ずきずき(する)

頭や歯などのうずくような痛みを表すときに使います。

2. 抜く

①上に引っ張って元の場所から離す、②ほかの物より上または先に行く、秀でる、③ある物だけを取り除く、などの意味があります。ここでは、③の意味です。

3. ちよくちよく

頻度が高いことを表します。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. ○ 4. × 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 熱が 39 度 1 分も出て、頭もずきずきして、咳と鼻水が止まりませんでした。
2. 最近残業が続いて、家に帰るのが遅い上、出勤時間が早くて、朝ご飯を抜くことも多かったからだろうと思っています。
3. 6 時間以上寝て、毎朝 1 時間歩いて、旬の物を食べるようにしています。

〈使ってみよう〉

1. ～て初めて

「～をするまでは～たことがなかった」、「～をしていなければ、ずっとそれができなかった、わからなかった」という意味を表します。きっかけになった出来事を説明するのに使います。

【解答例】

子どもができて初めて親の大変さがわかった。

2. ～ようにしている

「簡単ではないけれども、できるだけ努力してやっている」という意味で使います。「動詞辞書形／『ない形』＋ように」の形で使われます。

【解答例】

漢字を覚えるために、毎日日本語で日記を書くようにしています。

3. ～上

書くときによく使われる表現で、2 つの事柄を並べて、ある傾向や特性を表します。「上」の前は、動詞の辞書形、形容詞、名詞(+の)が使われます。

【解答例】

日本語教室は日本語が学べる上、いろいろな人と友達になることができます。

第13課 お祭り

〈この課で伝え合うこと〉

伝統的で有名な祭りや地域の住民が中心になって開くイベントなど、文化的な行事について情報を共有し、その意味や意義について理解を深めることをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. のんびり(する)

ゆっくりと穏やかに時間を過ごす様子を表します。「する、過ごす、くつろぐ、滞在する、旅する」などの動詞とともに使われます。

2. くたくた

植物がしおれてまっすぐに立ってられないように、疲れた様子を表します。そのほかに、最近の使い方として「野菜をくたくたに煮る」など、溶けるほど柔らかい状態を表すこともあります。

3. のびのび(する)

自由に振る舞う様子を表します。ほかにも、「育つ、遊ぶ、走り回る」などの動詞とともに使われます。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ×

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. パレードを見たり、ゲーム大会に参加したり、屋台でいろいろな物を買って食べたりしました。
2. リタさんの娘はのびのびと楽しそうに遊んでいました。
3. リタさんは友達に来年はお祭りを手伝ってほしいと頼まれました。

〈使ってみよう〉

1. ~として

役割や立場を表します。「として」の前は名詞です。

【解答例】

妹はこの病院で看護師として働いています。

2. ~も~ば、~も

この場合、「ば」は仮定を表すのではなく、「~も~し、~も~」と同じで物、事、人などを並べ、複数の物、事、人が存在する、または、複数の事が可能であると言いたいときに使います。「ば」とともに使われる動詞は、「ある、いる、できるなどの可能動詞、なる」など状態を表す動詞です。

【解答例】

野菜が好きな人もいれば、嫌いな人もいます。

3. ~によって

受け身の文で使われ、行為者を表します。

【解答例】

この商品はアメリカの会社によって作られています。

第14課 ボランティア活動

〈この課で伝え合うこと〉

社会の中でボランティア活動にはどんな意味があるか、ボランティア活動について考えを伝え合うことをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. ずっしり

重い物を持ったときに感じる重みを表します。

2. ごろごろ(する)

床に物が転がっている様子を表します。または、人が暇ですることもなく、時間を持って余している様子を表します。

3. いつか

①ははっきりとは言えない未来の「時」、または、②ははっきりと覚えていない過去の「時」を表します。ここでは、①の意味で使っています。

〈話してみよう〉

【解答】

1. × 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ○

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. 定年後に近所の人に誘われて、なんとなく始めたそうです。
2. 日本に来たばかりのころ、周りの人が助けてくれたので、いつか自分もほかの人を手伝ってお返しがしたいと思ったからです。
3. ベトナムの子どもたちの勉強を手伝ったり、本を読んだりするボランティア活動を勧めました。

〈使ってみよう〉

1. ～ほど

程度を表します。程度がはなはだしい場合に起こり得る極端な状況を示して、それと同じくらいだと言いたいときに使います。極端な状況によって引き起こされる身体的な変化や、「(忙しくて、)猫の手も借りたいほどだ」、「(土地が狭くて、)猫の額ほどしかない」などのように、慣用句が使われることも多いです。

【解答例】

家族に会いたくて、夢に見るほどです。

2. ～きっかけ

何かを始めるために、背中を押した出来事や現在の状況に至る最初の原因を表します。「きっかけ」は名詞ですから、文末も名詞か、「こと」を使いましょう。

【解答例】

絵を習い始めたきっかけは、美術館で一枚の絵を見たことです。

3. ～(さ)せてください

相手に許可を求める謙譲表現で、自分がやりたいことを申し出るときに使います。

【解答例】

体調が悪いので、今日は帰らせてください。

第15課 大人の夢

〈この課で伝え合うこと〉

子どもころの夢や大人になってからの夢や実現させたい目標などについて伝え合うことをめざします。

〈新しい言葉を調べよう〉

1. めちゃくちゃ(な)

乱雑で整理されていない様子を表したり、「とても、非常に」など形容詞や副詞を強調する言い方として使われます。

2. 気に入る

文末では「～が気に入っている」の形で使われます。また、「お気に入りの+名詞」という形もあります。特に、持ち物については「好き」より「気に入る」のほうが自然です。

3. やっと

長く時間がかかったけれども、結果として目的が果たされたことを言うときに使います。

〈話してみよう〉

【解答】

1. ○ 2. × 3. × 4. ○ 5. ×

〈読んでみよう〉

【解答例】

1. いつか大阪マラソンで完走したいと思っているからです。
2. ネパール料理の店で料理を作っています。
3. 日本の料理を食べたり、作ったりして、味の研究をしています。

〈使ってみよう〉

1. ～はず

判断するための自分なりの根拠があり、いずれ起こる事について確信を持って言うときに使います。

【解答例】

もうすぐバスが来るから、仕事には間に合うはずです。

2. ～といっても

聞き手の期待に対して、話し手がそれほどではないと否定するときに使います。

【解答例】

車を買ったといっても、古い車です。

3. ～わけにはいかない

「～ことはできない」という意味ですが、能力的に不可能ではないけれども、状況から判断して、そんなことはできない、そうするべきではないと思ったときに使います。

【解答例】

コンピュータが壊れたので、新しい物を買わないわけにはいきません。